

平成 30 年度

**教育委員会事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価に関する報告書**

(平成 29 年度対象)

平成 30 年 12 月
小豆島町教育委員会

目 次

I. 目的及び制度の概要	1
II. 点検・評価の方法	1
III. 小豆島町教育大綱の概要	2
IV. 教育委員会の活動状況	4
V. 点検・評価の結果（事務事業の点検・評価表）	
(1). 幼・保、小、中、高の一貫教育の推進	
運動能力向上事業	8
ふるさとを愛する事業	9
学力向上事業（わかる授業の実践）	10
学力向上事業（小豆島夏、秋・冬の分教場の実施）	11
人間尊重（心）の教育推進	12
栄養教諭を中核とした食育の推進	13
(2). 子育て応援の充実	
子育て応援講座	14
すくすく子育て応援アクションプランの実践	15
5歳児健診の充実	16
ふるさとを愛する心を育てる	17
子育てサポートの充実化	18
(3). 生涯学習と文化・芸術の推進	
公民館活動の計画策定	19
勤労青少年ホーム運営事業	20
働く婦人の家運営事業	21
文化財への意識の向上（文化財保護事業）	22
歴史資料の保存活用（古文書調査保存事業）	24
壺井栄顕彰事業	26
芸術振興一般事業	27
成人式実施事業	28
学校支援ボランティア促進事業	29
少年育成一般事業	30
図書館活動の充実	31
海洋センター一般事業	32
社会体育の充実（スポーツ振興事業）	33
社会体育の充実（体育施設管理事業）	34
生涯学習のまちづくり支援事業	35

I. 目的及び制度の概要

効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民への説明責任を果たしていくため、教育委員会が、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表する。

II. 点検・評価の方法

1. 平成 29 年度における教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検・評価を実施した。

なお、点検・評価する項目は、小豆島町教育大綱に掲げた重点課題の取組に係る事業（27 項目）について行うこととした。

【自己評価の区分】

A：事業目的を達成したもの（80%以上）

B：概ね事業目的を達成したが、検討課題等が残るもの（50%以上 80%未満）

C：事業目的の達成度が不十分なもの（20%以上 50%未満）

D：事業目的の達成度がきわめて不十分なもの（20%未満）

2. 点検・評価を行うに当たっては、本町の教育に関し学識経験を有する者の組織を設置し、知見の活用を図ることと定められているので、3名を点検評価委員に委嘱し、より客観性のある評価を得ることとした。

◎点検評価委員

新 名 教 男 氏 （学識経験者）

川 野 哲 朗 氏 （学識経験者）

石 山 真由美 氏 （学識経験者）

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162 号）（抜粋）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅲ. 小豆島町教育大綱の概要

●趣旨

この大綱は、町長が「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3第1項の規定に基づき、策定するものである。

国の第2期教育振興計画（平成25年6月策定）を参酌し、社会情勢や本町の子どもたちを取り巻く現状を踏まえて、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策」の方向性を定めている。

●大綱の期間

本大綱の対象期間は、平成29年度から平成33年度までの5年間とし、社会情勢や教育を取り巻く環境や施策の進捗状況に応じて、適宜見直しを行う。

●小豆島町教育目標

ふるさとを愛し、人間性豊かで、たくましく未来に生きる人づくり

●重点課題

- (1) 幼・保、小、中、高の一貫教育の推進
- (2) 子育て応援の充実
- (3) 生涯学習と文化・芸術の推進
- (4) ぬくもりと希望の島づくりの推進

●教育方針

- (1) 学ぶ意欲を高め、知性を磨く
- (2) 人間尊重の精神と豊かな道徳性を養う
- (3) たくましい心と体を鍛える
- (4) 社会連帯の意識を養い、郷土を愛する心を育てる
- (5) 子育てと社会参加の両立を推進する

●重点課題の取組

- (1) 幼・保、小、中、高の一貫教育の推進
 - ①発達段階を考慮した学校教育のあり方
 - ②幼・保、小、中、高の一貫教育の推進
 - ③教育環境の取組
 - ④学校教育の取組
 - ⑤運動能力向上の取組
 - ⑥家庭・地域の教育力向上の取組
- (2) 子育て応援の充実
 - ①就学前教育の充実
 - ②子育て応援の島づくりへの取組
 - ③自然・文化を生かした教育
 - ④働きやすい環境の促進
- (3) 生涯学習と文化・芸術の推進
 - ①生涯学習の推進
 - ②文化・芸術活動の推進
 - ③青少年の健全育成の推進
 - ④図書館活動の充実
 - ⑤社会体育活動の推進
 - ⑥生涯学習のまちづくり支援事業の推進
- (4) ぬくもりと希望の島づくりの推進
 - ①生涯を通じた障がい者支援の充実
 - ②偏見や差別のない社会の構築
 - ③教育と医療・福祉の連携の推進

IV. 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会の開催状況

開催日	区分	議 決 事 項 (協 議 ・ 報 告 事 項)
平成 29 年 4 月 21 日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区域外就学の承諾 ・ 準要保護児童生徒の認定 ・ 安田公民館館長の選任につき同意を求める ・ (小豆島町保育所規則等の一部改正について) ・ (教育大綱の見直しについて) ・ (小豆島教育会議について)
5 月 22 日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準要保護児童生徒の認定 ・ (小豆島町教育大綱及び小豆島教育会議について)
6 月 22 日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準要保護児童生徒の認定 ・ (壺井栄賞授賞式について) ・ (これからの学校のあり方について)
7 月 28 日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準要保護児童生徒の認定 ・ (外国人の子どもの町立中学校への受入れについて) ・ (小豆島夏の分教場について) ・ (学校施設等の巡回視察の日程調整)
9 月 26 日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定校変更の認定 ・ 準要保護児童生徒の認定
10 月 25 日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定校変更の認定
11 月 24 日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 区域外就園の認定 ・ (内海中学校プール事故の和解について) ・ (第 58 回小豆島駅伝競走大会について) ・ (香川ファイブアローズの小豆島公式戦について)
12 月 20 日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準要保護児童生徒の認定 ・ 指定校 (園) 変更・区域外就学 (園) の認定

開催日	区分	議 決 事 項 (協議・報告事項)
平成 30 年 1 月 29 日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定校（園）変更・区域外就学（園）の認定 ・（石の日本遺産化について） ・（幼保小中高の卒業式・入学式等の確認） ・（特別支援学校について）
2 月 23 日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準要保護児童生徒の認定 ・ 指定校変更・区域外就学の承認 ・（小豆島町幼稚園等の教員等人材育成方針について） ・（三都公民館の移転について） ・（教育委員会表彰式出欠確認）
3 月 8 日	臨時	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準要保護児童生徒の認定 ・ 指定校変更・区域外就学の承認 ・（幼保小中高の授賞式及び卒業式の出席確認） ・ 県費教職員の人事異動（案） ・ 幼稚園・保育所職員の人事異動（案）
3 月 26 日	定例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 準要保護児童生徒の認定

2. 教育委員会のその他の活動状況

月	内 容
平成 29 年 4 月	7 日 小豆島中央高校入学式 7 日～11 日 小・中学校・各幼稚園入学（園）式 12 日 二十四の瞳岬の分教場研修会 22 日 第 9 回総合教育会議
5 月	14 日 苗羽小学校運動会 15 日～16 日 演劇ワークショップ（小豆島中学校） 21 日 池田小、星城小、安田小学校運動会 30 日 指導訪問（福田こども園）
6 月	6 日 指導訪問（安田幼稚園） 8 日 指導訪問（安田小学校） 10 日 小豆島中学校運動会 22 日 指導訪問（橘こども園） 23 日 壺井栄賞授賞式 28 日 指導訪問（小豆島こどもセンター） 29 日 指導訪問（苗羽幼稚園）
7 月	28 日 第 18 回総合教育会議
8 月	21 日 学校施設等巡回視察
9 月	19 日 指導訪問（池田小学校） 26 日 指導訪問（小豆島中学校） 28 日 5 園合同運動会
10 月	2 日 中学生議会 11 日 指導訪問（内海保育所） 20 日 指導訪問（星城幼稚園） 20 日 演劇ワークショップ（4 小学校） 23 日 就学指導委員会
11 月	11 日 小豆島こどもセンター運動会 24 日 指導訪問（星城小学校） 27 日 指導訪問（苗羽小学校）
12 月	4 日 教育委員会事務の管理及び執行に関する点検評価委員会

平成 30 年 1 月	7 日 成人式 25 日 演劇観劇（4 小学校） 31 日 教育表彰選考委員会
2 月	6 日 小学生議会（安田小・苗羽小） 9 日 小学生議会（池田小・星城小）
3 月	1 日 教育委員会表彰の表彰式 13 日 小豆島中学校卒業式 14 日～17 日 町内保育所・幼稚園修了式 16 日～20 日 町内小学校卒業式

事務事業の点検・評価表

事務事業名	運動能力向上事業
担当課	学校教育課

小豆島町の教育における位置付け	
重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
取組	(1)-② 幼保小中高の一貫教育の推進 (1)-⑤ 運動能力向上の取組

事業の目的	
<p>《概要》 幼・保、小、中、高の一貫とした運動能力向上ができるよう異校種間の連携を図り、発達段階に応じた指導の充実に努めることができるよう支援する。講師を幼・保、小、中の体育の授業等に派遣して幼児・児童生徒の運動能力向上及び指導者の指導力向上を図る。</p>	
対象	幼稚園、保育所、小学校、中学校、高等学校、教職員
手段	体育の授業等への講師派遣や共通した運動プログラムの導入
目標	年間を通して計画的に講師を派遣することで、運動に親しむ幼児・児童生徒の増加及び幼児・児童生徒の運動能力の向上を図るとともに、指導者の指導力向上を図る。

【これまでの実績】

平成 25 年度からの新規事業として、幼・保、小、中学校の体育の授業や放課後水泳練習等に講師を派遣し、幼児・児童生徒の体力向上に働きかけるとともに、教員の研修会等を実施して教員の指導力向上に資することができるよう努めてきた。

【平成 29 年度実績】

- 小・中学校の教員研修
関口博之氏による運動能力向上講習会（年間 2 回）
- 小・中学校運動能力向上授業
和泉貴史氏による体力・競技力向上プログラムの指導（56 時間）
- 中学校柔道の授業補助
外部指導者男女各 2 名（96 時間）
- 小学校の水泳授業等補助
外部指導者 1 名 授業（59 時間）放課後（24 時間）
- 幼稚園・保育所の運動遊びの時間指導補助
外部指導者 1 名（202 時間）
- 放課後児童クラブ運動教室
外部指導者 1～5 名（84 時間）

【事務局の評価】 B

幼・保、小、中学校に講師を授業等に積極的に派遣するとともに、共通の運動プログラムを導入することができ、児童生徒の運動能力向上につながった。

今後は、一層幼児期からの運動能力の育成を図るとともに、共通の運動プログラムの定着を図り、小・中学生の運動能力の向上を目指していきたい。

【学識経験者の意見】

- ・講師を派遣することは、特に教員の指導力向上に役立っている。
- ・外部指導者が積極的に関わるのは良いと思う。外部指導者の確保とレベルアップが大事。
- ・継続している取り組みに関して、成果に繋がっているなので、引き続き実践してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	ふるさとを愛する事業
担当課	学校教育課

小豆島町の教育における位置付け	
重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
取組	(1)-② 幼保小中高の一貫教育の推進 (1)-④ 学校教育の取組

事業の目的	
<p>《概要》 ふるさとを愛する子どもを育てるためには、地域の「人」「もの」「自然」等の教育資源を積極的に活用することが重要であり、小・中学校の教育活動や授業に組み込む。</p>	
対象	小学生、中学生
手段	町内に存在する地域の「人」「もの」「自然」等の教育資源を小・中学校の教育活動（授業）に組み込み、積極的に活用する。
目標	各校の生活科や総合的な学習の時間等において、地域の教育資源を学期に一度は活用した授業を実施する。

【これまでの実績】

各校の生活科や総合的な学習の時間等に、地域の教育資源を活用した授業を実施してきている。

【平成 29 年度実績】

- 生活科（小 1・2）や総合的な学習の時間（小 3～中 1）等で地域の教育資源を活用した授業を年間計画に位置付け、実施した。（年間 50 時間～70 時間程度）
※以下は学習内容例
 - ・小学校 1・2 年「季節見つけ」「町探検」
 - ・池田小学校「いくた学習」3 年：障がい者理解、5 年：高齢者理解
 - ・星城小学校「星っ子タイム」3 年：醤油、4 年：オリーブ
 - ・安田小学校「安小わくわくワークス」3 年：醤油、4 年：オリーブ、5 年：農業体験
 - ・苗羽小学校「ひしおの里学習」3 年：醤油、4 年：オリーブ、5 年：壺井 栄
 - ・小豆島中学校「うしお学習」1 年：オリーブ、石、農村歌舞伎、平井兵左衛門
- 校外学習（遠足）で小豆島の自然を体験
 - ・オリーブ公園、田ノ浦、寒霞溪等

【事務局の評価】 B

全ての学校で地域の教育資源を授業内容に組み込み、活用することができている。地域の方の協力も大きく、児童生徒は人とのかかわりについても学習している。実践に基づいた成果を記録や表現物等にまとめ、家庭や地域に情報発信する取組を行っている学校や学年も多く見られ、次年度以降も各学校や各学年の実態に合わせた積極的な取組を継続していきたい。

【学識経験者の意見】

- ・地域の教材資源を教師自身が知らないことが多いので十分理解することが大切である。
- ・先生が小豆島の良さを知ることが大事、その上で保護者にも良さを伝え、知ってもらいようにしていただきたい。
- ・教材資源に恵まれた地域なので、引き続き授業に組み込み、計画的に実践してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	学力向上事業 (わかる授業の実践)	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	学校教育課	重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
		取組	(1)-④ 学校教育の取組

事業の目的	
《概要》 各教科の基礎・基本を明確にし、系統的・段階的な指導の工夫をする。また、学習意欲の育成と主体的な学習の仕方を身に付けさせる指導の充実を図る。	
対 象	小学生、中学生
手 段	香川型指導体制等による少人数授業（習熟度別指導）を積極的に実施する。主体的な学習や問題解決的な学習の充実を図る。
目 標	個に応じたきめ細かな指導体制を確立し、分かる授業を展開するとともに、少人数授業により学習内容を定着し、学習意欲の向上を図る。

【これまでの実績】

小学校、中学校ともに発達段階や習熟度に応じた教育実践に努めてきた結果、集中して学習に取り組める態度とともに、基礎的・基本的な学習内容は、概ね定着してきた。

【平成 29 年度実績】

<平成 29 年度 県学習状況調査結果より>

* () 内は、県平均正答率。網掛け欄は、県平均以上の教科。

区 分	小学校				中学校	
	3 年	4 年	5 年	6 年	1 年	2 年
国 語	56.5 (58.7)	78.6 (79.6)	72.9 (70.5)	73.3 (72.8)	61.1 (66.1)	70.2 (71.5)
社 会			76.7 (76.2)	74.9 (76.5)	65.7 (67.5)	64.3 (63.7)
算数・数学	83.5 (81.6)	71.1 (73.3)	83.7 (77.1)	69.6 (70.1)	73.3 (75.1)	68.5 (68.6)
理 科			78.0 (72.8)	76.7 (76.8)	67.5 (66.6)	57.6 (59.8)
英 語					73.7 (76.4)	67.2 (67.2)

【事務局の評価】 B

町内すべての小・中学校において、落ち着いた雰囲気での授業が行われている。11月に実施された県学習状況調査結果では、小学校では5年生においては全教科、3年の算数、6年の国語で県平均正答率以上の結果が出ているが学年差が見られる。中学校では1年の理科、2年の社会と英語において県平均正答率以上であったが、県平均正答率以下の教科も多い。

町全体としては、思考力、学習意欲や自尊意識、家庭での学習習慣に課題があり、主体的、問題解決的な分かる授業、個に応じた指導体制を行っていくことが必要である。

◆各校の課題克服のための独自の実践内容の実践（主体的な学習、個に応じた指導等）

◆小・中学校における外国語活動（英語）に関する連携強化（授業参観等）

【学識経験者の意見】

・すべての町内の小中学校において落ち着いて授業が行われている。県学習状況調査結果では、基礎的・基本的な学習内容は概ね定着してきている

・落ち着いた雰囲気での授業をできていることは良いことである。

・学校での指導が重要である。分かりやすい授業、個に応じた指導を実践してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	学力向上事業 (小豆島夏、秋・冬の分教場の実施)
担当課	学校教育課

小豆島町の教育における位置付け	
重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
取組	(1)-④ 学校教育の取組

事業の目的	
<p>《概要》 地元小豆島高校を卒業した大学生等（先輩の方々）と小豆島夏、秋・冬の分教場での学びの交流をとおして、中学校3年生及び町内小学3～6年生の学力の定着、向上をめざすとともに、中学生の進路意識を高める事業とする。</p>	
対象	中学校1～3年生（夏、秋・冬）、町内小学生3～6年生（夏）
手段	毎回、地元小豆島高校を卒業した大学生等から勉強を学ぶとともに、大学などの話も聞き、自分の将来について考える。
目標	学習を通して、大学生とコミュニケーションを取りながら、学習習慣の構築と将来の展望について考えることで、学習意欲の向上や基礎学力の向上を図る。

【これまでの実績】

平成24年度から平成26年度までの3年間、地域おこし協力隊の真鍋氏において寺子屋事業を実施した。平成27年度からは、それまでの「寺子屋教室」の趣旨や成果を受け継ぎ、学習習慣の構築や学力の向上を図るために、「21世紀を考える会」が事業を実施している。

【平成29年度実績】

平成28年度		平成29年度	
実施回数	11回	実施回数	11回
延参加人数	341名	延参加人数	420名
一回当平均参加人数	約31名	一回当平均参加人数	約38名

【事務局の評価】 B

地元の大学生等との交流という新たな刺激により、学習意欲・参加意欲の向上が図れたが、基礎学力の向上においては不十分な点がみられる。

平成26年度まで株式会社459の真鍋氏により実施した「寺子屋教室」の趣旨や成果を受け継ぎ、平成27年度からは、町内の小学生を対象に夏の分教場を実施してきた「21世紀を考える会」が主催者となり、ふるさと学生（地元小豆島高校を卒業した大学生等）を講師として「小豆島夏、秋・冬の分教場」を開催して、生徒の学習意欲の向上や学力の向上をめざして学習支援に努めた。また、ふるさと学生の中から、教員や地場産業の活性化に従事する後継者を育てるように努めた。

【学識経験者の意見】

- ・地元の大学生等の交流は新たな刺激になっていると思うが、参加者の意向は分からない。意欲の向上は図れたが、基礎学力の向上においては不十分ではないか。
- ・大学生等との交流の中で、お互い良い刺激になっているのではないか。家庭学習の習慣化が必要である。
- ・大学生等の交流は貴重な体験となっているので、より充実した事業となるよう努めてもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	人間尊重(心)の教育推進	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	学校教育課、(人権対策課)	重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
		取組	(1)-④ 学校教育の取組
事業の目的			
<p>《概要》</p> <p>「差別の現実に学ぶ」を基本に、幼・保、小、中の一貫した人権・同和教育ができるように、校種間の連携に配慮し、適時性、系統性を踏まえて指導の充実に努めることができるように支援する。小、中学校においては同和問題を柱として人権・同和教育を進める。</p> <p>また、小、中学校では、道德の時間が全教育活動で要となるように、指導の充実を図る。</p>			
対 象	幼稚園、保育所、小学校、中学校		
手 段	学校主体の人権学習を支援するとともに、地域や幼・保、小、中、高の連携を強化し、人権・同和教育及び道德教育の推進を図る。		
目 標	日々の行動に生かされる人権・同和教育及び道德教育を推進し、人権意識の高まりや道德性の涵養を図る。		

【これまでの実績】

人権・同和教育については、それぞれの発達段階において、共通実践課題に沿った活動を積み重ね、着実に子どもたちの人権感覚は高まってきている。また、道德教育についても「道德の日」の設定など、各学校が創意工夫し、地域ぐるみで子どもを育てる取り組みに努めてきた。

【平成 29 年度実績】

- 人権・同和教育に関する共通実践課題の見直しと共通理解

・幼・保	自分・友だち	・中学校 1 年	「「けがれ」と差別」
・小学校 1 年	自分・友だち	2 年	「身分制社会」
2 年	家族・友だち	3 年	「身近な差別」
3 年	障害者	・高 校 1 年	「さまざまな人権課題」等
4 年	仕事	2 年	「同和問題について」等
5 年	高齢者	3 年	「差別解消をめざす取組」等
6 年	同和問題		
- 保護者との連携を図るための授業公開や「道德の日」の充実

【事務局の評価】 A

校内における教職員研修（現地研修等）や新任・転任教職員に対する人権・同和教育現地研修会の開催などにより、人権意識の向上が図られた。また、児童生徒の人権感覚も育まれている。今後は、教職員と人権対策課との連携を深め、さらに人権意識の向上を図るとともに、小・中学校では道德の時間を中心に、学習を充実させ、家庭との連携強化を図っていきたい。

【学識経験者の意見】

- ・小中学校ともに、人権尊重の同和教育はよくできている。
- ・この時期に人権尊重、命の大切さ、思いやりの心を教えることは大切である。
- ・いじめや差別がなくなるよう、命の大切さや思いやりの心の教育を行ってほしい。
- また、地域や家庭への啓発を推進して、人権意識の向上に努めてほしい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	栄養教諭を中核とした食育の推進	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	学校教育課	重点課題	幼保小中高の一貫教育の推進
		重点取組	(1)-⑤ 運動能力向上の取組

事業の目的	
<p>《概要》</p> <p>「栄養教諭を中核とした食育の推進事業」で、幼・小・中・高一貫した子どもの指導や家庭への啓発を行う。食育推進体制の整備や各校・園における指導の充実を図るとともに、町独自の「オリーブを用いた健康長寿の島づくり事業」との連携を図る。</p>	
対 象	保育所園児、幼稚園児・小学生・中学生・高校生ならびに保護者
手 段	栄養教諭が中核となって、教職員研修・子どもの指導・家庭への啓発等を行う。
目 標	食育の重要性に対する認識をさらに深め、実践化することで、子どもの健康増進を図る。

【これまでの実績】

平成 24・25 年度の 2 年間、国の補助事業「栄養教諭を中核とした食育の推進事業」を受け、取り組んだ。以降、取組を継続して子どもへの指導や家庭への啓発等を行っている。

【平成 29 年度実績】

- 食育推進体制の充実
 - ・町食育担当者会（町内全ての保・幼・小・中・高の食育担当者が参加し、年 3 回開催）
 - ・町学校教育研究会の健康教育委員会で児童生徒の健康増進に向けた取組みの共通理解
 - ・親子給食、給食試食会、学校保健委員会等での啓発活動を全小・中学校で実施
親子給食の際には、保護者啓発のための食に関する講話を実施
- 保・幼・小・中・高を通じた食育に関する指導の充実
 - ・全ての幼稚園、小・中・高校で栄養教諭を活用した食に関する指導を実施
 - ・食事に関する課題の 1 つである野菜の摂取率を高めるため、「野菜を食べよう週間」を年 2 回（6 月と 11 月）設定し、週間中に町内放送で啓発するとともに、各校・園で子どもへの指導と家庭への啓発を実施
- 地場産物の積極的活用（オリーブオイルを中心に）
 - ・小豆島高校主催の「オリーブ料理フェスティバル」の活用

【事務局の評価】 B

食育推進体制の充実により、本町における地域性を生かして保育所から高校までの一貫した食育を進めることができた。各校・園では子どもの指導に加え、家庭への啓発も工夫して行うことができた。食育については家庭との連携が大切になってくるので、今後は、各校・園と家庭との連携をより充実させる必要があると考える。

【学識経験者の意見】

- ・食育の推進は学校より家庭への啓発が難しい。
- ・栄養教諭の関わり方が重要である。
- ・食育の重要性を、各校・園が家庭へ啓発してより充実した事業を実施してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	子育て応援講座	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	子育て共育課	重点課題	子育て応援の充実
		重点取組	(2)-① 就学前教育の充実

事業の目的	
<p>《概要》 核家族化とともに一人親世帯も増加するなか、子育て世帯の悩みを軽減することや家庭での子どもの生活習慣を確立することを目的に、平成24年度から有識者を招き、子育て支援の講演会を開催する。</p>	
対 象	町内の保護者
手 段	講演会等の開催
目 標	保護者の子育てに関する不安を軽減するとともに家庭教育力の向上を図る。

【これまでの実績】

平成24年度 9月 講演会 各小学校の入学説明会で講演会
 平成25年度12月 講演会とおやつづくり・クリスマス会
 平成26年度 3月 講演会
 平成27年度11月 親子参加型(段ボール等を使った物づくり)ワークショップ
 平成28年度 1月 親子参加型(ケーキ作り)ワークショップ
 以上の他に毎年度2月 各小学校入学説明会で講演会を開催

【平成29年度実績】

まちのおみせやさんごっこを2回開催した。町内にあるお店の方に講師を依頼し、親子参加型ワークショップ(ケーキづくり、フラワーアレンジメント)を開催した。合せて保護者と子ども20組47名が参加した。
 また、1～2月に各小学校で行われる入学説明会に併せて家庭教育の大切さを内容とする講演会を行った。

【事務局の評価】 B

ワークショップは、事業の都合上、定員枠を10組とし実施した。地道にワークショップ等を行うとともに、多くの親子が集まりやすい内容を引き続き検討する。
 小学校入学説明会での講演会は、入学する児童の保護者が必ず参加するので、今後も引き続き家庭教育の大切さ、小学校生活に向けての生活リズムや入学後の子どもとのコミュニケーションの大切さなどを内容とする講演会を実施する。

【学識経験者の意見】

- ・家庭教育の大切さを、小学校生活に向けて、保護者に十分認識されるよう講演会等通して知ってもらえれば。
- ・ワークショップ等たくさん参加しているので良いと思う。
- ・保護者が進んで参加したくなるような内容を検討してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	すくすく子育て応援 アクションプランの実践	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	子育て共育課	重点課題	子育て応援の充実
		重点取組	(2)-② 子育て応援の島づくり

事業の目的	
<p>《概要》 子ども・子育て支援法に基づく平成27年度からの5か年計画の策定と併せて小豆島町にある急速に進行する少子高齢化や子どもたちが健やかに育つ環境が失われつつある課題を解消するため独自の計画を策定した。</p>	
対 象	町内の児童、保護者、住民、企業、島外に住む出身者及び移住者
手 段	住民や企業の子育て参加を促す。子育てがしたくなる町づくりを実施する。多様な働き方を応援する。
目 標	保護者の子育てに関する不安を軽減するとともに子どもたちの健やかな育ちを応援する。子育てを応援することによりみんなで元気になる。

【これまでの実績】

平成25年8月21日、第1回すくすく子育て応援会議から第14回応援会議まで協議を重ね、平成27年3月、すくすく子育て応援アクションプランを策定した。

【平成29年度実績】

5つのテーマ “小豆島の魅力アップ” “働きやすい職場・やりがいのある仕事の創出” “男女共同参画の実現” “地域による応援” “子育ての環境づくり” を中心に、自然文化を生かした教育、情報発信、起業家の移住定住促進、育児家事の役割分担、地場産業の強化、世代を超えた交流、誰もが集まりたくなる場所づくり、ふるさと教育の推進など具体的施策を実施した。

すくすく子育て応援会議を2回開催し、各事業の進捗状況を報告し意見をいただくなどP D C Aを行った。

【事務局の評価】 B

様々な取組を行っていながら広く情報発信ができていない点については、ホームページ内の“子育て”の改善やフェイスブックの実施、子育てガイドブックや子育て通信（毎月発行）など取り組んでいる。

起業家の移住定住促進については、空き家バンクを利用した移住者が空き家や倉庫をリフォームし店舗を構えた（小物販売、カフェ、パン屋、洋食屋の4件）。

一方、世代を超えた交流については、既存施設を修繕し交流施設を開設しているが、施設利用は前年比130人増の年間911人と増えているものの、世代間交流には至らなかった。地域と連携し取り組む必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・5つのテーマに沿って、総合的に行っていて良いと思う。
- ・移住者の店舗や既存施設の利用も増えている。地元企業の参加や応援体制について詳しく知りたい。
- ・世代間交流に繋がるように、地域や企業、行政等へ協力を得るよう働きかけてはどうか。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	5歳児健診の充実
担当課	子育て共育課

小豆島町の教育における位置付け	
重点課題	子育て応援の充実 ぬくもりと希望の島づくり
重点取組	(2)-② 子育て応援の島づくり

事業の目的	
<p>《概要》</p> <p>5歳児健診を行い、発達障害の早期発見、適切な支援を行うことで、幼児の健康の保持及び増進を図り就学環境を築くとともに、育児不安解消など保護者支援を目的とする。</p>	
対 象	年度内に5歳になるすべての児童
手 段	小児科医、臨床心理士、言語聴覚士、保健師の協力のもと、集団観察、カンファレンスを行い、保護者と協議する。
目 標	小学校就学に向けた適切な支援及び保護者の育児不安を解消する。

【これまでの実績】

平成25年度からすべての児童を対象に行っている。香川県下で実施しているのは7市町である。

【平成29年度実績】

対象児童89名のうち88名が受診した。

[判定結果]

良好	70名
経過観察	13名
要医療	0名
既医療	5名

【事務局の評価】 A

小児科医などの協力をいただき実施している。集団観察、カンファレンス、保護者面談など事業開始から5年を経過し定着してきた。

今後は、小児科医等による報告、助言に理解を示さない保護者に対し継続的に働きかける体制づくりと、個別に行う療育支援体制の充実に取り組む必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・アフターフォローの体制が大切である。
- ・保護者の理解を得るのは難しく、簡単なことではないが、保護者に寄り添い適切な支援に努めてもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	ふるさとを愛する心を育てる	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	子育て共育課	重点課題	一貫教育の推進
		重点取組	(2)-③ 自然・文化を生かした教育

事業の目的	
<p>《概要》 田植え、野菜づくりなどの農業体験や自然を生かした園外保育、農村歌舞伎、安田踊りや獅子舞などの伝統芸能を体験することにより、地域の方々への感謝とともに郷土愛を育む。</p>	
対 象	保育所や幼稚園などに通う児童。
手 段	保育所や幼稚園などで積極的に取り組む。
目 標	子どもたちが身近にある豊かな自然、文化を様々な体験を通して知ることにより、ふるさとを愛する心を育む。お世話になっている地域の方々への感謝の気持ちを持つ。

【これまでの実績】

すべての施設において実施している。

【平成29年度実績】

春：花見、田植え、地域のレクリエーションへの参加
 夏：老人クラブとの七夕まつり
 秋：稲刈り、焼き芋、太鼓祭り
 冬：とんど遊び、凧揚げ、遠足
 その他、随時園外保育を実施

【事務局の評価】 A

子どもたちは、地域の多くの方々の協力のもと様々な体験を行っている。安田踊りをはじめ各地域にある踊りや獅子舞を指導いただき練習している。

今後も継続して小豆島の自然を生かし四季折々に季節を感じられる場所へ出かけ、ふるさとの良さを知ることができるよう努める。

さらに、小学校や中学校でもふるさと教育を推進しており、郷土愛は育まれている。

【学識経験者の意見】

・引き続き、豊かな自然や地域の文化を生かした教育を推進してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	子育てサポートの充実化	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	子育て共育課	重点課題	子育て応援の充実
		重点取組	(2)-④ 働きやすい環境の促進

事業の目的	
《概要》 平成24年5月から一時預かり事業を開始し、同年7月からNPO法人リトル・ビーンズに委託した。利用する児童のお迎えサービス(有料)や休日預かりを行っている。	
対 象	島内在住の生後4か月以上小学生まで
手 段	児童を一時的に預かり、保育する。
目 標	休日も一時預かりすることにより、多様な保護者のニーズに応えるとともに、児童の健全な育成を図る。

【これまでの実績】

平成26年度から22時までの夜間一時預かりを始めた。
 平成27年度からオリーブキッズ(小豆島中央病院病児病後児保育室)へ児童を搬送する通院サービス(有料)を始めた。

【平成29年度実績】

▶一時預かり事業利用児数の推移

	平成24年度	平成25年度	平成26年度
乳幼児一時預かり	671人(月平均61人)	1,000人(月平均83人)	1,075人(月平均90人)
学童保育	366人(月平均33人)	379人(月平均32人)	361人(月平均30人)
	平成27年度	平成28年度	平成29年度
乳幼児一時預かり	1,198人(月平均99人)	837人(月平均70人)	598人(月平均50人)
学童保育	178人(月平均14人)	244人(月平均20人)	366人(月平均31人)
通院サービス	0人	0人	0人

【事務局の評価】 A

他の施設で休止していた一時預かり事業が再開したため、乳幼児利用者数が減少したが、休日や22時までの預かり、お迎えサービスや病児の通院サービスなど他の施設では行っていないきめ細かいサービスを展開している。通院サービスの利用実績はないが、保護者が安心して子育てできる体制として整備している。

【学識経験者の意見】

- ・保護者が安心して子育てできる体制が整備されつつある。
- ・人材不足等を解消するためにも、保護者が働きやすい環境を作ってもらいたい。
- ・保護者のニーズに合ったサービスを提供してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	勤労青少年ホーム運営事業	小豆島町の教育における位置付け	
担当課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-① 生涯学習の推進

事業の目的	
《概要》 勤労青少年の健全育成、福祉の増進及び社会教育の振興を図るための講座の開設や施設の維持管理	
対 象	勤労青少年
手 段	講座の開設、施設の利用促進
目 標	講座等への参加により施設の利用を促すことで、勤労青少年の健全育成、福祉の増進及び社会教育の振興を図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【平成 29 年度実績】

教養講座・教室

講座（教室）	定 員	期 間	回 数
ギター教室	10 人	2 月・3 月	4 回
卓球教室	15 人	1 月・2 月	6 回

サークル・クラブ活動

サークル・クラブ名	代表者	活 動 内 容	会員数
小豆島マイコンクラブ	小西 政廣	毎週 1 回例会、地域行事へ協力（土曜日に活動）	17 名
小豆島町青年団	坂下 弘志	月 1 回例会、支部活動への応援 地域行事へ参加	15 名
小豆島音楽部	野村 明成	行事ごとに集会、町行事へ協力 ギター教室の指導	15 名
オリブクラブⅠ（卓球）	田村 昌一	毎週 1 回例会（毎週木曜日に活動）	8 名
オリブクラブⅡ（卓球）	浜崎 初男	毎週 1 回例会（毎週水曜日に活動）	29 名
小川クラブ（卓球）	小川 祥平	毎週 1 回例会（毎週金曜日に活動）	20 名
Olive Travelers 英会話教室	三好 智美	毎週 1 回例会（毎週金曜日に活動）	7 名
小豆島竹細工同好会	中村 巖	毎週 1 回例会（毎週木曜日に活動）	14 名
囲碁クラブ	造田 英俊	毎週 1 回例会（毎週水曜日に活動）	8 名

【事務局の評価】 B

各教室を例年通り開催した。卓球教室とギター教室ともに申込み人数が定員一杯にならなかったが、受講者は楽しく参加していた。

また、サークル・クラブ活動の利用登録団体数の増減はなかった。

【学識経験者の意見】

・より若い人の参加ができるような工夫、また、周知方法などを工夫して参加者を集める工夫をしてもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	働く婦人の家運営事業	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-① 生涯学習の推進

事業の目的	
《概要》 各種の講座を開設するとともに施設の使用を促進し、婦人教育の充実と活動の活性化を目指す。	
対 象	婦人
手 段	講座の開設、活動の展開
目 標	婦人の社会参加を促進することで、教養の向上と活動の活性化を図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【平成 29 年度実績】

【講習会】			【講演会】		【定期講座（自主活動）】	
生活講座	5	322 人	暮らしのセミナー 「心豊かな地域づくり」 講師 蓮井孝夫	51 人	籐細工教室	21 回
栄養教室	1	24 人			小物手芸	10 回
出張講座	10	150 人			パッチワーク	23 回
親子講座	1	24 人			人形	9 回
健康講座	1	28 人	【施設利用】		ヨーガ	128 回
			19 団体	10,208 人	お花 club	24 回

【事務局の評価】 A

現役で働いている若い婦人層の方でも参加しやすいように、休日や夜の講座を設けた。また、町内各地区の幅広い年齢層の婦人が参加できるように、各地区に出向き、出張講座を増やした。

【学識経験者の意見】

- ・概ね参加者数が増えてきていて良い。女性のパワーを感じる。
- ・若い婦人層が参加しやすい講座を実施してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	文化財への意識の向上 (文化財保護事業)	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-② 文化・芸術活動の推進

事業の目的	
《概要》 小豆島町内に存する文化財のうち、重要なものについてこれを保存し、かつ活用を図り、もって町民の文化的向上に資することを目的にする。	
対 象	小豆島町内に存する文化財
手 段	文化財の適切な保存、活用、調査
目 標	文化財の保存、活用、町民の文化的向上を図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【平成 29 年度実績】

〔文化財調査〕

小豆島農村歌舞伎（国選択無形民俗文化財）調査事業（693,558 円）

平成 27 年 3 月に、「小豆島農村歌舞伎」が国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財（通称：国選択無形民俗文化財）」に選択されたことを受け、平成 29 年 1 月に土庄町と共同で調査委員会を設置。小豆島農村歌舞伎の持つ文化財的な価値を調査し、平成 31 年度末までに調査報告書を刊行する。中山、肥土山のみならず、かつて島全域で盛んに行われていたことを踏まえ、小豆島固有の文化としての全体的な価値づけを試みる。

〔無形民俗文化財後継者育成事業〕

安田おどり、小豆島農村歌舞伎（中山）（県指定無形民俗文化財）
オシコミ、大練（迎地地区）、幟さし（馬木地区・橘地区）（町指定無形民俗文化財）
各団体に 40,000 円の補助金を交付（40,000 円×6 団体＝240,000 円）

〔古文書出前講座〕

県立文書館、土庄町教委との共催。講師は、小豆島町古文書調査団調査員 濱近仁史 氏
29 年 10 月から 12 月にかけて 6 回開催。参加者は 94 人（全 6 回延べ人数）
テーマ「江戸時代の瀬戸内海の内海運について」

〔指定文化財普及活動〕

基礎的な文化財の周知普及のため、町文化財保護審議会を中核として、「町広報」による文化財の連載、また説明看板を新設更新し、町民・見学者への利便を図るものである。

（広報）

平成 28 年 4 月号より連載開始。1 月に 1 つの文化財の紹介文を掲載。

一般の方によりわかりやすい内容とすることを目標とした。

(看板)

破損、未設置の文化財について、優先的に看板を設置。29年度は10件10か所に看板を設置した。

【事務局の評価】 B

町広報誌による文化財の紹介を実施し、文化財の普及活動には繋がっていると考えるが、まだまだ町民の意識が薄いと思われるため、文化財の調査・価値づけも継続的に実施し、町の歴史文化自然の魅力を広く発信していけるよう努力したい。

【学識経験者の意見】

- ・指定文化財の普及は、広報等を通じてよくできている。
- ・広報誌の文化財の紹介は、読みやすく分かりやすいので継続してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	歴史資料の保存活用 (古文書調査保存事業)	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-② 文化・芸術活動の推進

事業の目的	
<p>《概要》</p> <p>町内の古文書類を調査、整理、保存し、文化財保護を推進するものである。また「賑わいの島」づくりの島の魅力を創造するために、町史の基本となる史料をまとめ、利用しやすくする。</p>	
対 象	町内に点在している古文書類
手 段	古文書の調査、整理、保存を行う。
目 標	古文書をより後世に引き継ぎ、情報を整理して一般利用を可能にするため、古文書の情報収集及び保存確保を図る。

【これまでの実績】 平成 25 年度から実施。

【平成 29 年度実績】

小豆島町古文書等調査委員会を設置し、愛媛大学法文学部と徳島文理大学文学部、古文書の県内学識者の協力を得て、町内の古文書の整理と保存処理を実施した。

○調査概要

第 1 次調査：平成 29 年 5 月 第 2 次調査：平成 29 年 8 月 第 3 次調査：平成 30 年 3 月
調査点数(H29.4 現在)：調査カード作成 1,337 点、校合 2,170 点、写真 47,096 枚

○調査参加者

〔愛媛大学〕胡准教授、学生 ほか

〔徳島文理大学〕橋詰教授、丸尾教授、学生 ほか

〔県内学識者〕県立ミュージアム職員、県立文書館職員、県内高校教員 ほか

○調査方法

〔保存〕紙の塊になっている古文書を 1 点ずつに分け、中性紙の封筒に入れる。

〔調査〕あらかじめ項目を決めている調査カードに沿って、古文書の内容、大きさ、形式、作成者等の情報を抜き出し、目録化する。

〔撮影〕古文書の写真を撮影。表紙だけでなく、1 頁ごとに撮影を行なう。

○進捗状況

調査カード作成 ほぼ終了見込み。校合作業を進める。

写真撮影 随時進めている。

○29年度作業の主な文書概要

岡井家文書

入部村の行政文書。素麺製造に関するもののほか、醤油、廻船に関する資料を有する。

【事務局の評価】 B

調査・保存処理は順調に進展している。

これから保存等をどう行っていくかの検討に入る段階である。古文書類は特に一般に普及するのが難しいものになるので、学識経験者等の指摘も踏まえつつ、一般町民にどう普及していくかが課題である。

【学識経験者の意見】

- ・大学の先生等と協力して、古文書をうまく整理できている。ぜひ最後までやってもらいたい。
- ・地道な活動に敬意を表します。
- ・新しい古文書の発見にも力を入れていただきたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	壺井栄顕彰事業	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-② 文化・芸術活動の推進

事業の目的	
<p>《概要》 我が国の文学界に多彩な業績を残した壺井栄先生を顕彰するとともに、郷土の文化の向上に寄与する。</p>	
対 象	香川県下の小・中・高校・高等専門学校（1～3年生）に在籍する児童・生徒
手 段	毎年、作品を募集し、最優秀作品に壺井栄賞を贈呈している。
目 標	郷土の児童、生徒の文芸資質の向上と発展を図るとともに、児童・生徒の書く心を育て、郷土の文化の向上に寄与する。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【平成 29 年度実績】

応募状況

区 分	応募作品数	応募校数
小 学 校	73 編	13 校
中 学 校	10 編	4 校
高等学校	5 編	1 校
合 計	88 編	18 校

授賞式

日時 平成 29 年 6 月 23 日 （壺井栄の命日）

会場 小豆島町坂手 坂手公民館

壺井栄賞（最優秀賞） 1 編 優秀賞 5 編 （佳作 8 編）

【事務局の評価】 B

中学校・高等学校では、各 1 校ではあるが新たな学校の応募があった。さらに作品募集の呼びかけを行い、小学校、中学、高校の応募を増やしていきたい。

【学識経験者の意見】

- ・ 県下の小中学校には認知されているので良いことであると思う。
- ・ 応募者数も大事だが、量よりも質を大切にしてもらいたい。
- ・ 文章を書くことが苦手な児童生徒も多いので、書くことの楽しさを学べる機会を作れば応募者数も増えるのではないか。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	芸術振興一般事業	小豆島町の教育における位置付け	
担当課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-② 文化・芸術活動の推進

事業の目的	
<p>《概要》 三都半島アートプロジェクト実行委員会を中心に、三都半島アートプロジェクト事業を行い、地域住民が文化芸術に親しむ機会を提供する。</p>	
対 象	過去 AIR 作家、広島市立大学教員及び学生、地域住民
手 段	作家の制作活動を支援するとともに、地域住民との交流を図る。
目 標	文化芸術に触れる機会を増やすことにより、地域住民が文化芸術に親しみ、地域の活性化を図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【平成 29 年度実績】

三都半島アートプロジェクト

○平成 29 年 9 月 16 日～10 月 1 日

合計 15 日（9 月 17 日は台風により中止）期間中来場者：262 名

新規作家を含む 14 名のアーティストが参加し、15 点の作品を展開した。

また初日の 9 月 16 日にはオープニングセレモニーを実施し、神浦地区の歴史リービデを上映した。

【事務局の評価】 C

台風の接近があったとはいえ、期間中来場者 262 名というのはあまりに少ない。単に作品を展示するだけではなく、ワークショップの開催等、地元住民と共に活動できる内容や、マンネリを解消する必要がある。

【学識経験者の意見】

- ・地元の方も飽きてきている面もあるので、作品展示以外の工夫も必要である。
- ・瀬戸芸の期間外の活動が課題である。
- ・アートに触れる機会は少ないので参加者数が少ないのは残念である。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	成人式実施事業	小豆島町の教育における位置付け	
担当課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-③ 青少年の健全育成の推進

事業の目的	
<p>《概要》 町内在住者及び町外（町出身）の20歳を迎える若者に、新成人のお祝いと成人としての自覚を促すことを目的に開催する。</p>	
対 象	町内在住者及び町外（町出身）の20歳を迎える若者
手 段	成人式式典
目 標	成人式を行うことで成人を祝うとともに、多くの新成人に新成人としての自覚を促す。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【平成 29 年度実績】

日 時 平成 30 年 1 月 7 日（日） 13：30～

会 場 サンオリーブ 「オリーブホール」

成人式参加状況

年度	対象者数	参加者数	参加率
29 年度	148 人	121 人	81.8%

※ 成人証書と記念品（オリーブの箸）を贈呈

【事務局の評価】 A

新成人から実行委員を募集し、実行委員に企画運営を今年度も依頼した。思い出のスライド放映をした後、「20年を振り返って。そしてこれから」と題した発表を5名にしてもらい、それぞれの思いを発表してもらった。また、司会進行を4名に任せた。

新成人には、成人した自覚や保護者への感謝の気持ちをもてるような式にできた。

【学識経験者の意見】

- ・ 実行委員を募り、自らが企画運営に携わることは良いことである。
- ・ 今後もこのスタイルで実行してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	学校支援ボランティア促進事業	小豆島町の教育における位置付け	
担当課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-③ 青少年の健全育成の推進

事業の目的	
<p>《概要》 地域全体で学校教育を支援する体制づくりを促進することにより、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の拡充及び地域の教育力の活性化を図る。</p>	
対 象	小豆島に在住している方（無償で活動していただける方）
手 段	申込により、「学校支援ボランティアリスト」に登録し、学校側の要望と、ボランティアの声を“地域コーディネーター”が連絡調整する。
目 標	学校支援ボランティアを促進することで、教員の子どもに向き合う時間の拡充や、地域の教育力の活性化を図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【平成 29 年度実績】

学校支援ボランティア登録者数 230 人

学校支援活動（日数）

区 分	学習支援活動	部活動指導	環境整備	読み聞かせ	登下校安全指導	学校行事	計
小豆島中学校		80					80
星城小学校		30		10	200	2	242
安田小学校				33	200		233
苗羽小学校	135	130	35	35	117		452
池田小学校			11	11	200		222
保育所・幼稚園	54		55	38		24	171
計	189	240	101	127	717	26	1,400

【事務局の評価】 A

地域の方々が、部活動支援、環境整備、読み聞かせ等、学校を支援することで、地域の教育力を向上させている。

地域の方々による見守りで、登下校時の児童の安全確保が図れている。

子どもたちとボランティア活動で交流をすることにより、地域の方々の生きがいとなっている。

【学識経験者の意見】

- ・地域と学校とのつながりを持つ取組は良い。地区の老人たちの励みにもなっている。
- ・活動日数が大幅に増えており、大変良い。
- ・登下校の見守りは、どんな天候でも毎日立っていただいております、児童の安全確保が図られている。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	少年育成一般事業	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-③ 青少年の健全育成の推進

事業の目的	
<p>《概要》 小豆地区少年育成センターの分室として、小豆島町内における少年の非行を防止し、その健全育成を図る。</p>	
対 象	小豆島町内の少年
手 段	青パトによる街頭補導、白ポストによる環境浄化活動、キャンペーンの実施、情報交換会等
目 標	小豆島町における少年の非行を防止し、健全育成を図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【平成 29 年度実績】

- ・街頭補導実施回数 43 回 補導 21 名
- ・白ポストによる有害図書等回収数 185 点
- ・キャンペーンの実施 夏の青少年非行防止キャンペーン 7 月 31 日
- ・常駐育成委員会の開催 年 11 回開催（夏休み期間の 8 月を除く）
- ・生徒指導連絡会の開催 7 月、12 月、3 月（長期休業日前）
- ・地区育成委員研修会の開催 7 月 5 日
- ・愛のパトロール実施（夏休み期間の夜間パトロール）
9 地区 延べ参加人数 364 人
- ・クリーン作戦 10 月 27 日

【事務局の評価】 B

例年通り、連絡会や地区育成委員の研修会を実施した。
今後も、学校・警察・地区育成委員との連携を図りながら、青少年健全育成に努めていきたい。

【学識経験者の意見】

- ・青パト等続けていくことが大事である。
- ・地味な活動であるが、地域で守り育成していくためには必要なことである。
- ・スマホ・インターネット等見えないところでの対策が必要になってくる。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	図書館活動の充実	小豆島町の教育における位置付け	
担当課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-④ 図書館活動の充実

事業の目的	
<p>《概要》 身近な図書館として地域の人々に読書をはじめとする情報サービスを提供する。 「図書館だより」の刊行、町ホームページへの掲載などによる情報発信を行う。また、各公民館への配本を行い、遠隔地へのサービス充実を図る。さらに、ロビー展の増設をはじめ読書週間行事や各種事業を実施し、図書館の啓発と利用促進に努める。</p>	
対 象	町内住民
手 段	情報発信、図書の貸し出し、配本、各種事業の展開
目 標	本に親しみ、安定的に利用されることで、住民の教養の向上を図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【平成 29 年度実績】

(1) 図書資料の充実と利用状況

年 度	図書資料		入館者数	貸出冊数			視聴覚コー ナー利用者
	蔵 書	A V		一般図書	児童図書	A V	
29	80,286	1,693	24,707	23,439	18,531	210	1,579

(2) 池田子ども文庫の充実と利用状況

年 度	図書資料		入館者数	貸出冊数			視聴覚コー ナー利用者
	蔵 書	A V		一般図書	児童図書	A V	
29	6,167	0	1,137	89	1,133	0	0

移転の為、池田子ども文庫は平成 25 年 4 月から閉館。平成 25 年 7 月 20 日再開館。
 移転に伴い、AV 資料は全て小豆島町立図書館へ移管。視聴覚コーナー廃止。

【事務局の評価】 B

概ね安定した利用状況にある。また、ロビー展の企画や読書週間行事の実施などで利用者の増に努めており、一層の充実を図りたい。

【学識経験者の意見】

- ・ 職員の対応も丁寧で好印象である。
- ・ 事業も充実して良いと思う。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	海洋センター一般事業	小豆島町の教育における位置付け	
担当課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		重点取組	(3)-⑤ 社会体育活動の推進

事業の目的	
<p>《概要》 町民の体力づくりの拠点施設として、青少年を対象とした水泳教室や海洋スポーツ、また、婦人層を対象に水泳教室も開催し、町民皆体育を推進する。</p>	
対 象	青少年、婦人
手 段	プールやカヤック等を活用して海洋スポーツを推進
目 標	海洋スポーツを推進することで、町民の皆体育、体力づくりの向上を図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

【平成 29 年度実績】

1. 海洋センター活動

教室・講座の開設

6月13日～9月12日	レディーススイミング教室	(計24回)	延 801名
7月25日～8月11日	初心者水泳教室	(計12回)	延 422名
7月1日～8月6日	親子ふれあい等海洋教室	(計4回)	延 85名
7月9日～7月22日	B&G 海洋教室	(計2回)	延 9名

指導者育成研修

6月15日～16日	香川県 B&G リーダー研修	(小豆島ふるさと村)	職員 2名参加
-----------	----------------	------------	---------

大会、行事

7月26日	香川県 B&G マリンスポーツ大会	(小豆島ふるさと村)	町内 4名参加
-------	-------------------	------------	---------

2. B&G 財団事業への参加

1月24日・25日	第10回 B&G 全国サミット	(東京都)	教育長参加
-----------	-----------------	-------	-------

【事務局の評価】 B

親子ふれあい教室の回数を前年度より1回増やし、4回実施した。普段はなかなか体験できないマリンスポーツを、多くの子どもの体験してもらうことができた。

レディーススイミングスクールの参加者は年々増え続けており、リピーターを確保することにも成功している。今後の課題は講師の育成・確保である。

【学識経験者の意見】

- ・子どもたちに海に親しむ習慣を養うことができるよう続けてもらいたい。
- ・レディーススイミングスクールは参加者も増加しており、体力づくりの向上が図られている。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	社会体育の充実 (スポーツ振興事業)	小豆島町の教育における位置付け	
担当課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-⑤ 社会体育活動の推進

事業の目的	
《概要》 各種スポーツ大会や教室を実施し、町民皆体育を推進する。	
対 象	町民一般
手 段	大会や教室で参加の機会を提供する。
目 標	スポーツの各種事業を行うことにより、町民皆体育と健康づくりの推進を図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

平成 29 年度実績			
大会・行事			
12月8日・9日	ファイブアローズ小豆島公式戦 (土庄町フレトピアホール)	8日	1,253名参加
		9日	1,262名参加
10月24日	体力・運動能力調査 (内海体育館)		17名参加
11月26日	少年少女マラソン大会 (内海総合運動公園周回)		118名参加
12月3日	第58回小豆島駅伝競走大会 (吉ヶ浦～坂手) (うち小豆島町23チーム)		34チーム参加
3月11日	ふるさと発見!健康ウォーク (坂手港～隼山～碁石山)		97名参加
1月21日	小豆島バレーボール大会 (土庄町フレトピアホール)		一般の部 8チーム参加 女子の部 14チーム参加
教室・講座			
7月24日～8月25日	初心者バドミントン教室 (小豆島中学校体育館)	計8回	延193名参加
8月28日～9月25日	初心者テニス教室 (内海総合運動公園テニスコート)	計8回	延115名参加
9月13日～11月15日	貯筋運動教室 (B&G体育館)	計10回	延325名
【事務局の評価】 B			
ソフトボール大会以外の行事を例年通り実施した。その他に、ファイブアローズ公式戦として、初めて小豆島会場として実施した。また、ソフトボール大会の代替え行事として、土庄町と合同で小豆島バレーボール大会を実施した。			
【学識経験者の意見】			
<ul style="list-style-type: none"> ・町民皆体育と健康づくりの推進のため、継続して続けてもらいたい。 ・貯筋運動から一歩進んだプログラムを実行してもらいたい。 ・土庄町と合同で実施する事業は今後も継続できるよう検討してもらいたい。 			

事務事業の点検・評価表

事務事業名	社会体育の充実 (体育施設管理事業)	小豆島町の教育における位置付け	
担 当 課	社会教育課	重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
		取組	(3)-⑤ 社会体育活動の推進

事業の目的	
《概要》 職域や同好グループによる利用や各種大会に活用される等、町民の健康づくりや憩いの場として提供する。	
対 象	町民一般
手 段	体育施設の提供
目 標	体育施設の管理を充実することで、町民の憩いの場としての利用を推進し、町民の健康づくりを図る。

【これまでの実績】

単年度ごとに事業を実施している。

平成 29 年度実績

内海総合運動公園 (件)

年度	野球場	多目的広場	テニスコート
29 年度	330	459	455

内海武道場 (件)

年度	柔道場	剣道場
29 年度	31	104

体育館 (件)

年度	内海体育館	中山体育館	池田体育館	福田体育館
29 年度	760	68	574	49

プール (人)

年度	福田プール
29 年度	121

施設修繕

- ① 池田体育館 井戸埋め立て工事 59,400 円
- ② 中山体育館 浄化槽コンプレッサー取替 41,850 円

【事務局の評価】 B

どの施設も町民のサークル活動等にもよく利用されている。施設の経年劣化がみられるため、今後学校の再編に伴う体育施設を効率よく修繕等を進め、利用促進に努めたい。

【学識経験者の意見】

- ・施設の老朽化対策を計画的に実行してもらいたい。

事務事業の点検・評価表

事務事業名	生涯学習のまちづくり 支援事業	小豆島町の教育における位置付け	
		重点課題	生涯学習と文化・芸術の推進
担 当 課	社会教育課	取組	(3)-⑥ 生涯学習のまちづくり 支援事業の推進

事業の目的	
《概要》 地域の自発的な力をまちづくりに生かすため、町内で地域に根差して生涯学習事業(青年健全育成、芸術文化、スポーツ振興)に取り組んでいる者に対して、活動の補助を行う。	
対 象	町内を活動の拠点として、生涯学習事業を実施している団体
手 段	選考委員会(プレゼンテーション)を経て、補助金を交付する。
目 標	町民の自発的な生涯学習活動への補助を行うことで、活動が促進され、新たなまちづくりを推進する。

【これまでの実績】 単年度ごとに事業を実施している。

【平成 29 年度実績】		
申請件数 9 件(前年度比 +1 件) → 全件採択		
補助金交付総額 1,830,433 円(431,504 円)		
〔交付内訳〕(色つきは、新規団体)		
団体名	内容	交付額
本からうまれる一皿実行委員会(芸術文化)	小豆島が生んだ作家 壺井栄の作品の中に登場する「食」に着目し、当時の島の食文化や年中行事、風習、食産業について調べ、月報や冊子として発刊し、広く伝承する。	114,533 円
小豆島狛犬探究会(芸術文化)	島内には江戸時代に大坂から運ばれた狛犬が多数存在し、貴重な文化財として保存されている。それらを活かすため、狛犬探訪を企画し、江戸時代の大坂と小豆島のつながりや地元の歴史文化、産業の関わりを創造し、実感する。	200,000 円
あずき♪島っ子合唱団(青少年育成)	子どもたちの健全育成のため、感受性を磨き、表現力を高めることを目的として、子ども合唱団を立ち上げ、社会貢献活動や文化向上、世代間交流等を実施する。	200,000 円
卒業遍路(青少年育成)	自分の生まれ育った島の魅力を再発見し、自分の将来と小豆島を結びつけてビジョンが持てるよう、3月卒業予定の中高生を対象に10～15kmの一日歩き遍路を実施する。	200,000 円
小豆島徒歩健康会大会実行委員会(スポーツ振興)	3キロ、3キロペア、5キロ、10キロのマラソンを西村の農免道路で実施。また、小豆島の名所旧跡、景勝地をめぐるウォーキングを実施し、参加者の健康増進及び、小豆島の魅力再発見を図る。	200,000 円
ユネスコスマイルキッズ	島内の子ども達に英会話を楽しんでもらい、自然な形で英語に親しみを持ってもらう。また、子育て中	200,000 円

	の親同士の交流の場としても機能させ、島での子育てをより魅力的なものにしていく。	
その船にのって	日常に根付いた文化状況を島民たちの手でつくり、自ら運営していくことを目指す。	115,900 円
こまめDeART	世界の名画の贋作を子どもが作成している「アーブル美術館」を西日本で初めて開催、島民のアート意識の向上を狙う。	300,000 円
Theater 箱舟	小豆島に新しくできた劇場「Theater 箱舟」での演劇滞在制作を通して、小豆島町の芸術文化の振興を図る。	300,000 円

【事務局の評価】 B

昨年同様選考委員会での審査により、具体的に継続ができるようなアドバイスがもらえるようになっている。新規の団体の申込みも一定数おり、事業の周知はできているように思う。

一方、生涯学習という幅の広さから、特に文化芸術の振興を図る団体が乱立しはじめいている。一部の人間だけではなく、多くの人が恩恵を受けられるような活動が重要で、プレゼン時の精査が必要である。

【学識経験者の意見】

・それぞれの生涯学習の活動が促進されていると感じている。補助金に見合った活動をしてもらいたい。

・実績報告等、補助金交付後の精査やアフターフォローが必要である。

・選考委員会の適切なアドバイスをいただき、意義のある活動を実施してもらいたい。